

施策名：スマートシティの推進

国土交通省都市計画課・市街地整備課
03-5253-8411 hqt-smartcity@gxb.mlit.go.jp

分野	公共・社会基盤分野での未来技術の活用	総合戦略該当箇所	横2-1-(2)-ix	予算額	令和3年度当初一般会計 220百万円
-----------	--------------------	-----------------	-------------	------------	-----------------------

特徴・ポイント

- ✓ 官民連携プラットフォームの枠組を活用し、関係省庁連携の下、スマートシティリファレンスアーキテクチャを参照しつつ、AI、IoTなどの新技術や官民データ等をまちづくりに取り入れ、都市・地域課題の解決を図る「スマートシティ」を強力に推進する。

目的

- ・ スマートシティの分野で、我が国が世界の先導役となることを目指し、全国の牽引役となる先駆的な取組を行う先行モデルプロジェクトを募集し、スマートシティの取組を支援。
- ・ スマートシティモデルプロジェクトをより深化させるため、先駆的な取組を行うモデルプロジェクトの貫徹に向けた継続的な支援に加え、「3D都市モデル」を活用した新たなモデルプロジェクトを創出することにより、「まちづくりのデジタルトランスフォーメーション」を強力に推進。

概要

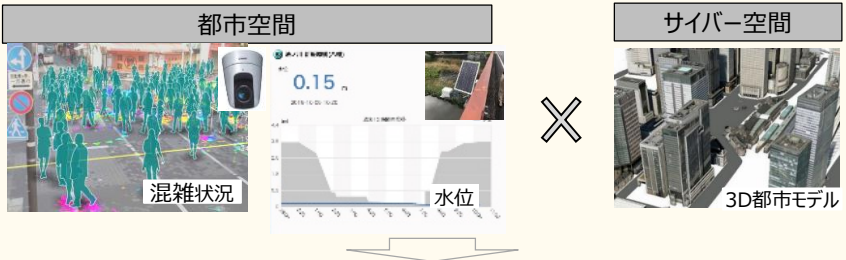
- ・ 民間事業者等及び地方公共団体を構成員に含む協議会（コンソーシアム）等の団体により実施される、全国の牽引役となる「先行モデルプロジェクト」を対象に、実証実験を支援。

<期待される効果>

先駆的な取組を行うモデルプロジェクトの貫徹を通じたスマートシティの社会実装の加速化、「まちづくりのデジタルトランスフォーメーション」の推進

<支援イメージ>

都市空間（センシング）とサイバー空間（3D都市モデル）の両方を高度に活用した実証実験を実施

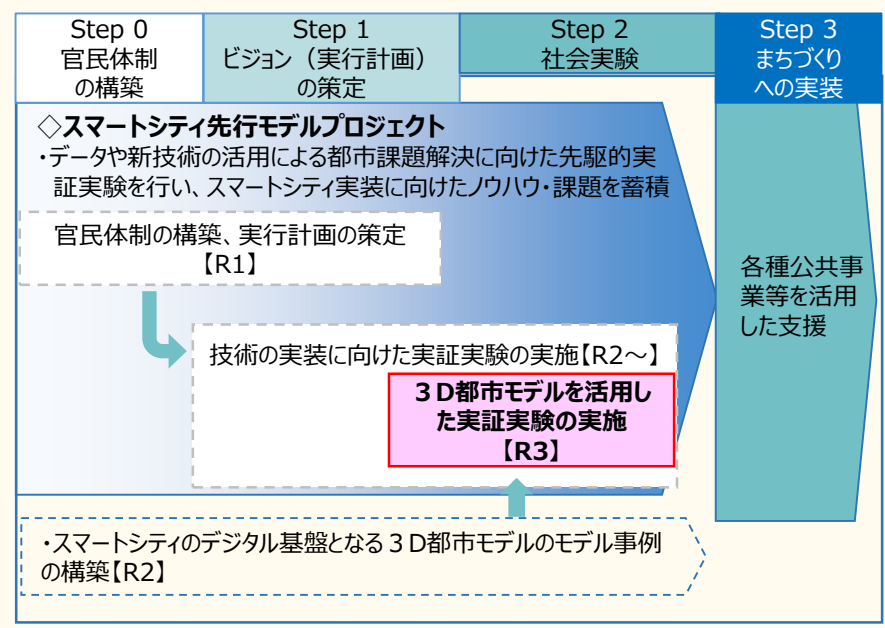


センシング技術・3D都市モデルの高度活用により、「新たな日常」の実現等に向けた都市の課題解決にも対応できる先駆的な全国展開モデルを創出し、社会実装

<上限額等>

1プロジェクトあたり2000万円を上限

<まちづくりへの実装に向けたロードマップ>



詳細

地方公共団体の活用事例

ICTにより健康・快適を実現する市民参加型スマートシティ実行計画（札幌市）

健康寿命が全国平均を下回り、政令市の中でも下位に位置している現状に対し、市民参加型のスマートシティにより健康と賑わいの向上を目指す。

目標

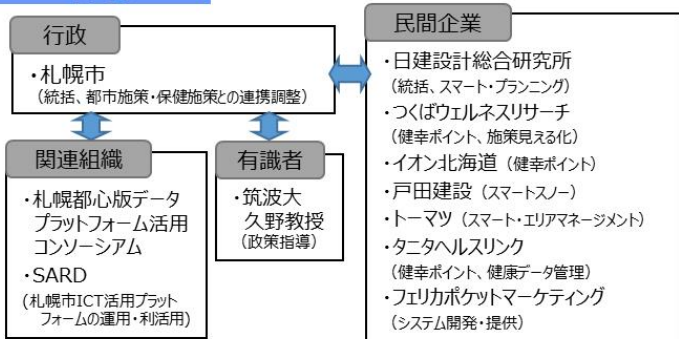
- 健康指標：
平均歩行時間 約20分/日の増加（約30%増）（2024年）
- 賑わい指標：
観光消費額 7000億円/年（約20%増）（2024年）

取組概要

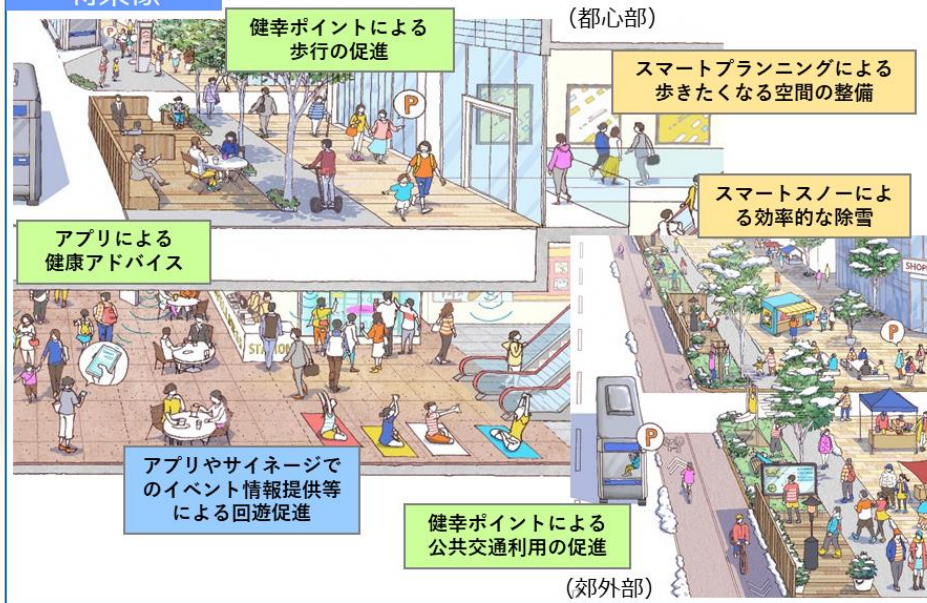
健康ポイント等のインセンティブにより行動変容を促すとともに、移動や健康のビッグデータを取得し、まちづくり・健康サービスに活用



体制



将来像



スケジュール

